

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(ユニット2)

事業所番号	0190500660		
法人名	株式会社 じょうてつケアサービス		
事業所名	グループホーム 菜の花 豊平館		
所在地	札幌市豊平区豊平3条8丁目1番18号		
自己評価作成日	平成27年8月31日	評価結果市町村受理日	平成27年11月16日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL http://www.kaizokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JkyosyoCd=0190500660-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	企業組合グループ・ダイナミックス総合研究所 介保調査部
所在地	札幌市手稲区手稲本町二条三丁目4番7号ハタナカビル1階
訪問調査日	平成27年10月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ・ご家族の意向が運営に反映されてきており、サービスの多機能化が実現できている。
- ・防火扉、発電機、ジェットヒーター等、災害に対して特化した設備を整えている。
- ・入居者様、御家族が相談しやすい体制作り力を入れている。
- ・地域の方が自由に参加できる夏祭り等を開催したり、地域の行事に参加したり、開かれたグループホーム作りが行なわれている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、札幌市南東方向の豊平区市街地に位置し、国道36号の幹線から東方向中小路にある2階建て2ユニットで平成23年にオープンしたグループホームである。近隣にはコンビニやドラッグストアなど商店もあり、利便性のよい地域である。事業所の駐車場屋上部分は花壇と菜園になっており、手入れや収穫は利用者・家族・職員一緒に行っている。階段には、避難スロープを設置して、緊急避難に備えており、廊下や共用空間はゆったりしており、利用者は日中は殆ど居間で寛いでいる。法人は老舗のグループ会社で地域からの信頼も厚く、平成14年から介護事業に関わり、事業所は現在12ヶ所を運営しており、培ったノウハウが活かされている。法人理念と7つのケア理念があり、その中から毎月の目標を設定し結果の総括はケアの向上と人材教育に活かしている。避難訓練や行事など地域の協力の元、家族会を中心に外出の意向調査をして、帯広などの遠方への外出支援は3ヶ月の介護計画の見直しを行い実施するなど、利用者と家族の思いや意向を尊重したケアに努める職員のグループホームである。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目		取組の成果 ↓該当するものに○印		項目		取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらいの 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんどつかんでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月、職員はケア理念の中から目標をひとつ選んで、日々のケアで実践し、入居者様にどのような変化があったのかを報告しあいより良いケアの実践につなげている。	法人の理念とケア理念は、事業所内に掲示し、パンフレットにも掲載して、利用者や家族に周知している。また、職員はケア理念の中から毎月のチームと個人の目標を決めて実践し、結果を検討して、次の目標を設定して職員全体で理念の共有とケアの実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のカラオケボランティアとの交流は、回を重ねるうちに馴染みの関係が出来、ホームの避難訓練にも参加。町内の清掃や花植え等の活動には入居者様と共に参加し、毎年ホームに花を頂いている。庭園で収穫した野菜をご近所に届け、喜ばれた。	地域とのつきあいは、町内の清掃や花植え活動に利用者と職員が参加したり、カラオケボランティアサークルが年3回来訪している。また避難訓練や事業所主催の夏祭りなどにも地域の方の参加が有り相互の交流を日常的に行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で、個別ケアの実践や、その人に合わせた支援の方法をスライドを用いて紹介した。また5月には、認知症についての相談会を開催し、地域へご案内状を配布した。夏祭りでは、入居者様と地域の方が自然に触れ合っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で、日々の生活状況を報告し、構成員の方より意見を頂いている。まちづくりセンターからのすすめで、連合町内会のコンサートに入居者様と参加し交流が出来た。	運営推進会議には、市担当者や包括センター職員、民生委員、街づくりセンター職員、町内会役員や家族の方が参加して、定期的に開催され、介護に関するテーマで勉強会をするなどして、意見を聞く機会となり運営に反映している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に札幌市の出前講座を招き、介護保険制度について詳しく説明をして頂き、質疑応答の時間も設けた。市の担当者に外部評価の結果を直接届け、協力関係築ける体制づくりをしている。	札幌市の出前講座を運営推進会議で実施したり、街づくりセンター職員からの支援で、連合町内との交流が始まるなど市担当との協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	新人のスタッフは、新人研修に参加し身体拘束をしないケアについて学び、カンファレンスで発表し全員で話し合った。日々のケアの中での言葉遣いなど、お互いに注意し合える環境づくりをしている。	身体拘束しないケアの指針やマニュアルを整備して、職員は身体拘束をしない研修会に参加して学び、カンファレンスで検討し話し合うなどしており、また、職員は互いに、日々のケアの中で注意しあえる環境で身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	新人のスタッフは、新人研修に参加し、高齢者虐待防止について学んでいる。高齢者の権利擁護を考える集いに職員2名が参加し、学んだ事をカンファレンスで報告し、全員で話し合った。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者・職員が、外部研修で高齢者の権利擁護を考える集いに参加し、学び得た知識をカンファレンスで伝達した。今後、必要に応じて支援に努めていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	運営規定・重要事項説明書を用いて、契約時の説明を本社と共に行った上で契約を結んでいる。また、改定時には書面を通して説明し、ご家族の疑問点についてはその都度説明し理解を頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	カウンターにアンケート用紙を用意し、玄関入口に回収箱を設置している。ホームの行事についてのアンケートでご家族も参加での食事会の希望が多数あり、今年1月に寿司パーティー・8月に焼肉パーティーを行い喜ばれている。	ホーム便りを毎月発行し、家族へ利用者の生活状況を報告している。玄関に意見箱を設置し、家族会の開催や行事についてのアンケート調査を行い、外出の意向を聞き、家族と職員同伴で遠方へ墓参りに行くなど、利用者・家族からの意見や要望を聞き運営に反映している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者は、管理者・リーダー会議・ワーキング委員会で現場の声を吸い上げ、提案・検討し必要に応じて改善をしている。カンファレンスでは、年に一度、実状に見合った業務の見直し・変更をしている。本社教育課がカンファレンスに参加し職員の意見を聞く機会がある	管理者会議が月1回、リーダー会議を3ヶ月毎に開催し、管理者と職員の個人面談は年1回実施している。適時開催のワーキング委員会で業務改善を検討するなど職員の意見を聞く機会を設け、意見や提案を運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、職員個々の能力・努力・実績を考慮し、管理者の意見や要望を取り入れて準社員・正社員の登用をしたり昇格に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修では、新人研修・スタッフ研修・ケアプラン研修を定期的開催し学ぶ機会を設けている。また、実践者研修の受講の機会を増やし、職員のスキルアップにつながっている。6月に1名受講している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	市・区の管理者連絡会・外部研修に参加し、様々な事例への取り組みを具体的に聞き、お互いの情報交換を行う機会が持っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時にご本人・ご家族から不安に思っている事や要望などを十分に聞くように努めている。初期の段階で細かくアセスメントを行っており、日々のコミュニケーションの中からご本人の思いを汲み取るようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを開始する前に面談を行い基本情報シート・ホームでの生活で望む事を記入して頂き、出来るだけ要望に沿う事でご家族の不安を取り除くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その時のご本人の心身の状況を把握し、ご家族と相談しながら、訪問診療・訪問歯科・訪問リハビリなど専門職との連携を取り、必要に応じてサービスを利用している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	屋上庭園での野菜作りでは、苗を植えたり、野菜の成長過程で追肥や、支柱を立てる作業のアドバイスやお手伝いをして頂いたり、一緒に収穫を行った。女性の入居者様は、台所の仕事を職員と一緒にやっている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	屋上庭園での野菜作りは、ご家族も参加され、入居者様・職員と共に作業している。夏祭りでは、多くのご家族がバザーに協力して下さり、売り場を手伝って頂けた。お誕生会には全てのご家族が出席され職員と共にお祝いをしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	帯広に住んでいるご兄妹と一緒に墓参りに行きたいとの希望があり、帯広まで職員が同行し、移動・排泄等の支援をし実現出来た。北見のご兄妹と年に数回葉書のやり取りの支援をしている。	遠方への墓参りや結婚式への参加など3ヶ月前に意向を聞き、介護計画に反映させて、外出できるようケアを行い、職員が利用者・家族と同行して、馴染みの人や場所などへの関係継続の支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係がバランス良く保たれるように必要に応じて座席の配置の工夫や配慮をする事で関わりがが多くなっている。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	平成23年以降退去者がいないため、取り組みとしては行っていない。今後、必要に応じてご家族の相談や情報提供などの支援に努めたいと考えている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプランの変更時に時間を取り、困っている事、希望や意向を伺っている。日々の何気ない会話や行動は個人記録に記入し、モニタリングの際に複数の職員の情報も参考にして検討しケアプランに反映している。	家族へのアンケート調査や聞き取りなどで、本人の意向を把握している。特に外出などは利用者からの希望があり、カンファレンスで検討して、本人の意向に添えるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に、ご家族からこれまでの生活歴や趣味・嗜好について基本情報シートに記入して頂き、ご本人の言葉から得た情報も合わせ、できるだけこれまでの暮らし継続出来る様に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は、記録や、申し送りにて情報収集を行い心身の状態や変化についての伝達をし情報を共有している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	膝の関節痛がある方が整形外科の理学療法士から指導を受けた体操を訪問マッサージの先生に伝え週に2回実施して頂いている。ケアプランでも個別ケアとして取り入れている。	アセスメント担当者が利用者や家族の意見や要望を聞き取り、医師などの専門家の意見を含め、カンファレンスで全体で打合せして、現状に適した介護計画を作成している。また、モニタリングは毎月行い介護計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご本人の言葉や、その時の行動、表情をより詳しく記入する事を心掛けている。日々の変化は、モニタリング・アセスメントに反映させカンファレンスで話し合い情報の共有と介護計画の見直しに役立っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外来受診にご家族が同行出来ない場合は、病院の送迎同行をしている。個別対応として、衣類や化粧品などの買い物の支援をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内のボランティアと定期的にカラオケの交流が図れた。清掃や、花植えなど町内会活動にも参加している。豊平神社のお祭りでは、子供神輿が、館の前に来てくれるので、子供達との交流を楽しんでいる。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回、訪問診療をうけている。24時間いつでも電話での相談が出来、状況に応じてアドバイス・緊急薬の処方してくれる。その後の経過報告により緊急性がある場合には夜間であっても往診にも来てくれる。	かかりつけ医は入居後も継続しており、可能な限り職員が同行して受診している。また、月2回、協力医療機関による訪問診療があり、緊急時は24時間体制で医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回、本社看護師が来て1週間の体調・気分の変化や直近の往診記録・血液検査・お薬の変更等を伝え相談、アドバイスをもらえる体制を取っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院治療の必要が生じた際は、入院時に必要な情報を伝えており、入院中は面会に行き、治療内容やご本人の様子、退院の予定等情報交換をしている。退院時・定期検診の結果等は入院先の医師からかかりつけ医に情報提供をして頂いている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	重度化について説明した上で、意向書の記入をしご本人、ご家族の意向を伺っている。家族会で重度化や終末期について事業所で出来る事、他館での看取りの事例を紹介し、ご家族が不安に感じていることを伺い話し合いの機会をもっている。	重度化や終末期にむけた方針は、契約時に利用者と家族に説明し同意を得ている。家族会などで、看取りについての事業所の対応を説明して理解を得ている。また、協力医療機関の24時間体制の支援もあり、チームで対応できるよう取り組んでいる。	重度化や終末期に向けたチームでの支援体制を協力医療機関とも連携し取り組んでいるが、グループ内他館の実例による職員の研修会を企画開催するなどして、看取りの支援体制の構築を期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	カンファレンスの内部研修で緊急時の対応について職員全員で学び合っている。緊急時フローをキッチン・スタッフルーム・リビングに貼り、急変時に慌てずに対応出来るようにしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に4回の避難訓練の後に、災害時に備えて職員全員が発電機・ジェットヒーターの作動訓練を行っている。避難訓練には町内会役員が参加し協力体制を強めている。災害に備え、3日分の薬・お薬情報・非常食・水を常備している。	避難訓練は、消防署の指導の下、火災は年3回、地震が1回と町内会役員の協力を受け、定期的を実施している。階段には避難用のスロープを設置しており、避難には有効であり、災害時の備蓄等も整備され、夜間は3人体制として緊急時に備えて災害対策を行っている。	火災時や地震時の避難訓練を地域の方の参加で定期的実施しており、地域での協力体制を築いているが、災害時の避難先の選定や地域における避難者の受け入れ先とするなどの地域での更なる体制構築に期待したい。
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	外部研修に参加し、接遇について学んだ事をカンファレンスで話しあっている。特に排泄に関しては、その人の立場に立った言葉かけやプライバシー保護の対応を心掛けている。	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーについては、職員を接遇等の外部研修に参加させ、カンファレンスで伝達講習と事例をグループホームに置き換えて話し合いを行い、職員で共有している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食べたいおやつや飲み物を選んで頂いたり、外食レクの際は、バイキングスタイルでお好きなものをご自分で取ったり、メニューの中から選んで召し上がっている。カラオケや散歩は本人の希望を重視している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	朝、なかなか起きられない方は、ご本人の目覚めた時間に合わせ朝食を召し上げて頂いている。気分の変化で集団での体操やアクティビティにしたい時は、個別でゆっくりと関わりを持つようになっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に1回の訪問理美容でカット・カラーリングをされ好みのヘアスタイルを楽しまれている。洋服を着る順番がわからない時は、季節に合わせた組み合わせをご本人の好みを取り入れて支援している。朝の整容では髪を整えたり、髭剃りの支援もしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様から当日のメニュー紹介をして頂き、食事への関心や楽しみが増すようにしている。その人の食べ方に応じた大きさや調理方法・味付けは個別行う事もある。野菜の皮むき・盛り付け・食器拭きなど準備と後片づけは職員と共に行っている。	メニューは毎月1回打合せしてグループ内管理栄養士が作成している。敬老会、クリスマス会など行事食は、利用者が選ぶこととしており、楽しい食事の支援をしている。また、利用者は職員と一緒に食事の下準備や片付けなども行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の水分量は1500ccを目安にこまめにすすめている。食事摂取量が少なめの方には副食から召し上がって頂けるように声を掛けたり配置の工夫をしている。その方の食べるペースに合わせて出来るだけ自分で食べられるように支援している。		
42		口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	必要に応じて訪問歯科を受けている。毎食後、ご自分で出来る方には声掛けをし、歯間ブラシを使用し磨き残しのケアを支援している。入床前に義歯をお預かりし義歯洗浄剤を使用して清潔を心掛けている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	安易におむつを使用せず、排泄の失敗を減らすため、その人のタイミングに合わせて、羞恥心に配慮した声掛けと誘導を行っている。トイレの場所がわからない事が原因で失敗をしてしまう方のためにドアに表示を付けている。	利用者ひとり一人の排泄チェック表を作成し、職員間で共有して、利用者個人個人の表情や仕草によりトイレへ誘導して、排泄の自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量が少ない方には、こまめに好みの飲み物をすすめている。その他ヨーグルト・プルーン・オリゴ糖乳酸飲料など便秘に効果がある食物を提供している。また、午前・午後の体操の時間に腹圧をかけるような運動も取り入れている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	一人ひとりの好みのお湯の温度や時間の希望を考慮しその人に応じた入浴の支援をしている。入浴の曜日は基本的に決まっているが、その日の気分によっては、時間や曜日を変更し、気持ち良く入浴が楽しめるように支援している。	入浴は週2回以上行っており、利用者のその日の気分や状況により、対応している。浴室には、シャワー洗浄機を設置しており、また、浴槽は3方向からの介助ができ、利用者や職員にとって負担の少ない設備である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中に体操や散歩・レクリエーションなど適度な運動を行っている。朝食後や昼食後は居室に戻りベッドで横になる入居者様もいる。寝付けない時にはゆっくりとお話を伺い、安心して眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局から薬が届いた時には、薬剤情報と照らし合わせて確認し、薬が変更になった時、臨時薬が処方された時は往診記録に細かく書き込み薬剤情報と合わせて職員全員が確認をし異変を感じた時には、速やかに医師に連絡出来る体制になっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	農家をされていた方が職員と共に庭園での野菜作りを楽しまれている。短歌を書き掲示板に貼ってみなさんに読んでもらうのが張り合いになっている方もいる。コーヒーと甘いものが大好きな方は居室でコーヒーを飲み音楽を聞いており、職員が同伴し喫茶も行かれています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望に沿って散歩に出掛けている。必要に応じて日用品や衣類の買い物の同行支援をしている。ご本人・ご家族の希望があり、遠方へのお墓参りに職員が同行し移動・排泄の支援をした。朝早く出発のご家族との外出では、食事の時間を変更、対応した。	日常的に近隣の散歩や買い物など利用者の希望によって職員が同行支援をしている。特に外出の意向を聞くアンケート調査の結果を元に帯広への墓参りや結婚式への職員同行など利用者と家族の意向を尊重した支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の了解のもと、現金を所持されている方が数名いる。年に一度の買い物ツアーでは、入居者全員が欲しいものを選び、ご自分で支払をされている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎年、ご家族への年賀状を書く支援をしている。北見に住んでいるご兄妹と絵手紙や葉書でのやり取りをされている方がいる。道外、市外に住んでいるご家族と交流スペースに椅子を用意しゆっくりに話される方もいる。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	カレンダーや壁飾りは入居者様と一緒に季節を感じるものを作成している。各洗面所には、季節の花を飾っている。難聴の方が、リビングでテレビを観ると音量が大きくなり過ぎるため、状況を見て調整している。適度な空気の入替えと温度調整を心掛けている。	採光や風通しもよく、廊下は車いす2台が並走できる程の幅で広く、階段には、避難用スロープを設置しており、緊急時には有効である。2階の廊下の突き当たりは、屋上の花壇や菜園で季節を感じられる。室内の壁には、利用者手作りのカレンダーや飾り物などが掲示され季節が感じられ、居心地のよい空間である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓テーブルを囲んで数人でお話しをされたり、ソファで並んでゆったりと座りテレビを観たり、横になっている方もいる。食席で、新聞や本を読まれている方もいる。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	部屋に仏壇を置いている方が数名いる。趣味の盆栽を観賞している方や、亡くなったご主人が作った陶芸品を飾っている方もいる。入居前から使用しているベッドや椅子で寛がれている方もいる。	居室は一間ほどのクローゼットがあり、収納に配慮されている。利用者は、使い慣れた家具や馴染みの物を持参しており、居心地のいい居室として配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの居室の入口には、手作りの表札を付け、ご自分の部屋が分かりやすいようにしている。トイレの場所が分かるようにドアに表示を付けている。ご自分の席を迷うことがあるためテーブルに、お名前前のシールを貼っている。		